絵画専攻
日本画領域
油画領域
版画領域

Painting Course
Japanese Painting
Oil Painting
Printmaking

秋山 由佳
AKIYAMA, Yuka

描くこと
Drawing

　植物や風景を見つめることで捉えた、私と対象の間にある空気や呼吸のリズムを大切に描いています。
この作品「地に生きる」は、成長することと、腐敗することが同時に進行する木々の様子を描きました。雨風を求めるも、自身が伸ばした枝葉によって遮られ、根元にはなかなか届かず腐敗していきます。そこで感じた土臭さを、和紙と墨を中心とした素材で表現したいと思いました。
　また、修士論文を通して中国明時代の文人画家である徐渭についての考察をしました。徐渭の持つ豊かな墨の表現を、自分自身の絵画の中に組み込むことができないか、模索しながら制作を重ねました。
　描きたいモチーフに適した、線表現と抽象的で偶然性のある水墨の濃淡を合わせながら、モチーフと向き合うための手がかりを探しました。これからも観察、先人に学ぶこと、素材と向き合うことをしながら、制作を続けていきたいです。

地に生きる
Live
墨、岩絵具、水干絵具、金泥 / 楮紙
Sumi, mineral pigments, dyed mud pigments and gold leaf on Japanese paper
180 × 227.3 cm

荒井 直子
ARAI, Naoko

淘汰される伝統的画材と細胞分裂
Disappearing subjects of traditional painting and cell division

　今の日本画と呼べる画材はなんなのか疑問を感じている。国の名を冠しているが中身はあいまいなものである。表現の追求の前に道具を理解していなくても良いことではない。科学によって伝統は支えられていることを実感するばかりだ。職人の減少と使う側の知識の少なさで、らしさでもあったアナログな部分が淘汰され便利なものへと変わっている。選ばれたものが残り、発展していく現象は植物にも共通していると私は思う。植物は常に成長している。周囲を吸収、融合して歪な形になるところと切り捨てて朽ちていく形は生き残る事に貪欲な細胞の姿である。私には醜くも美しく魅力的に感じる。基礎すらも壊して生き抜いている。
　自らの画材の研究とモチーフの樹木を通して、生命の形の奇妙さを描いていきたい。

Beyond the earth
岩絵具 / 吉祥麻紙 / Mineral pigments on Japanese paper
182 × 409.5 cm

飯田 健二

IIDA, Kenji

動物園という環境の絵画化

The zoo environment in painting

私は、古来より描かれている動物をモチーフとしている絵画について研究し、自然と一定の距離が置かれた現代で動物園という限られた環境でしか見ることのできない動物を主として制作しています。動物園という限られた環境にいる動物は、野生の鋭さや佇まいと、飼育されどこか人間のような仕草には憂いや儚さを持ちます。この二面性による矛盾と人間という存在について日々模索し続けています。

昼と夜、昼
Day and night, day
岩絵具、水干絵具、墨、金箔 / 高知麻紙
Mineral pigments, dyed mud pigments, sumi, gold leaf on Japanese paper
116 × 276 cm

昼と夜、夜
Day and night, night
岩絵具、水干絵具、墨、金箔 / 高知麻紙
Mineral pigments, dyed mud pigments, sumi, gold leaf on Japanese paper
116 × 276 cm

奥村 彰一
OKUMURA, Shoichi

桃源郷的表現
Expression of Chinese utopia

中国の理想郷である桃源郷は、「閉じられた、それ自体で完結し充足している霊妙な空間」という特徴を持ち、「盆景」、「太湖石」、といったミニチュアライズされた景観、「天井・院子」をもつ住宅の設計、「内経図」という人体図、「壺中天」や「遊仙窟」と言った物語世界の中にも見ることができる。

それらはいま私たちのいる大宇宙＝マクロコスモスの縮図として共振関係を持ち、いたるところに偏在する一個の小宇宙＝ミクロコスモスであるとともに、閉じられたなかに増殖する力を秘めた母胎のようでもある。

山水画、特に華北山水画もまたそのような桃源郷的世界の表現であるが、一個の風景の中に「点景」という小さな風景を内包するそれは、曼荼羅的風景画と言えるかもしれない。

私はこの構造を応用し、一つの小宇宙たる人物を以って、桃源郷的表現を現代に再構築することを試みている。

おてんば納涼図
Hoydens enjoying the cool of the evening
墨、岩絵具 / ポリエステル画布
Mineral pigments, sumi on polyester
200 × 368 cm

サンセット行旅図
Sunset travelers
墨、岩絵具、箔 / ポリエステル画布
Mineral pigments, gold leaf, sumi on polyester
300 × 368 cm

佐藤 健太郎

SATO, Kentaro

「自然」の在り方、「水」の在り方、日本の風土や思想を含めた考察、自己の表現への還元

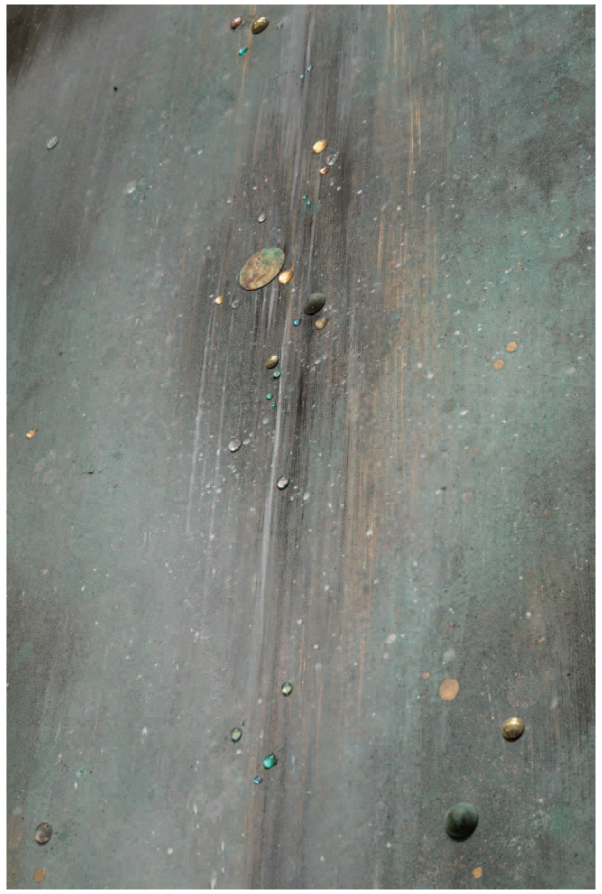
Considering the relationship between the formation of ideas of “nature” and “water”, and Japanese culture and faith

天ツ川 / Water and sky
墨、金属箔、岩絵具、太鼓鋲、樹脂 / 三彩紙 / ビニールシート
Sumi, powder form for painters, natural mineral pigments, metal tacks, resin on Japanese paper, vinyl sheet
484 × 455cm

2011年3月11日、大地を大きく震わせ発生した揺れは「津波」を引き起こし、沿岸部に甚大な被害をもたらした。生まれ育った地が豹変した姿を目の当たりにし、全てを飲み込んだ「海」に対する恐ろしさを感じた。しかしながら人は「水」が無ければ生きることが出来ない。「水」という存在について考える為、「水」に主眼を置き一貫して制作を続けてきた。水そのものの表現方法を探求することはもちろんのこと、様々な展示方法も含め多角的に研究を深めてきた。

さらに思想と表現を深めるべく、日本の風土や地理的環境が与える自然観形成と信仰への関係について調べ、各地の「水」にまつわる聖地を巡るフィールドワークを重ねた。それら自分の身を持って体感し経験し得たものを手掛かりに、今作品では「水」が循環する様相を表現し、仰ぎ見る行為自体が持つ信仰性と対峙した者を含め展開する空間性を巨大な立体的絵画として表現することを試みた。

作品上部 / detail



左下　展示風景 / Lower right : installation view
右下　作品部分 / Lower left : detail

中野 雄基

NAKANO, Yuki

生物、ねずみを通してみる自分の日本画

Animal feeling, my Japanese paintings

　私は大学院日本画専攻にて生き物、特にねずみをモチーフとして、生物の感情といった複雑な存在を、平面作品、日本画という分野、またその画材を用いていかに表現することができるのかの研究しております。

守 / Protect
岩絵具、水干絵具、箔 / 寒冷紗
Mineral pigments, dyed mud pigments, foil on Chinese cloth
180 × 220 cm

名取 加奈子

NATORI, Kanako

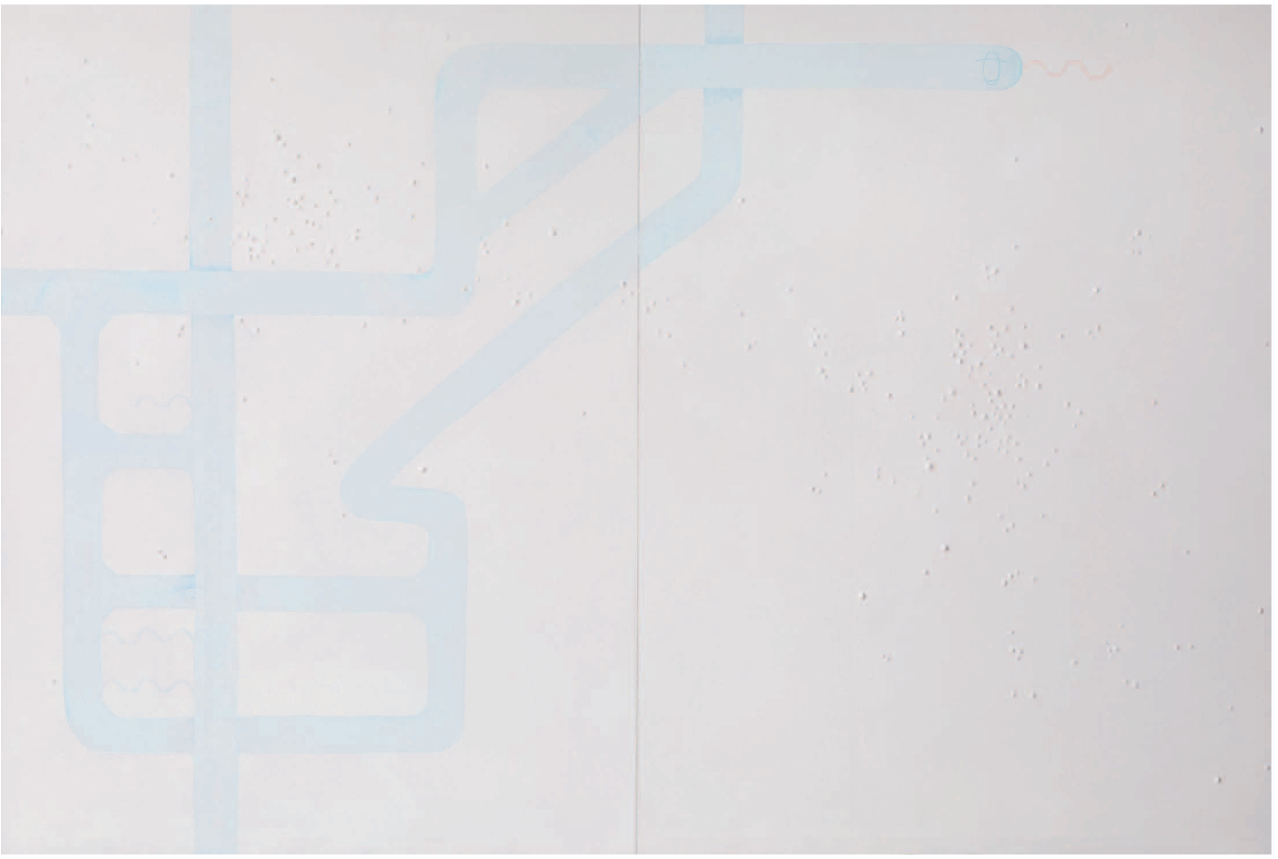
身体の平面性について

About flatnesss of body

「身体」というテーマを軸にそのあり方を模索してきた。現代で感じる私たちの「身体」はとても薄く、そして軽い。絵画の持つ平面性と身体の持つ平面性を融合させたものが私の作品群である。

「身体」には時々、予期しない変調が訪れる。湿疹やただれなど、直接触れることのできる変化はその最たるものであり、自らが生を持つものであることを突きつけられる。平らに近づく私たちも「身体」という枠からは永遠に逃れることはできないのだ。

Skin 1
彩色 / 板
Color on board
183 × 276 cm



Skin 2
彩色 / 板
Color on board
183 × 276 cm

原 杏奈

HARA, Anna

境界の所在

Location of the border

　彼岸と此岸 - 相容れない二者の間は境界でもって隔たれている。
地上には線が引かれ国境と為し、動植物は保護や愛玩の対象となる、そのような人間主体の思考に疑問を抱かずにはいられない。
かつて神話で、動物は言葉を話し人間もまた動物であった。疲弊した現代だからこそ、その意味を今一度考えるときではないだろうか。
個を没し誰のものでもない自然へ身を沈めるとき、本当の世界に触れられる気がする。そして境界は流動し、二者は通じ合う。
その瞬間を望み、求め、小さな宇宙を顕在させることを意図し制作をつづける。

境界の所在 / Location of the border
岩絵具、土絵具 / 楮紙 / Mineral pigments on Japanese paper
240 × 364 cm

三鑰 彩音

MIKAGI, Ayane

装飾と無意識と空間

Decoration, consciousness and space

「意識」という概念があるように、「無意識」という概念があります。知覚した素材や印象がモチーフに代わっていくのは、育った過程が紡ぎ出した風土としての空間の中で、時間をかけて自身に取り込まれ、その融合により作家の個性が生まれます。その「無意識」にあるものから「意識」として現れるきっかけに着目し、研究と制作を進めてきました。

また、グラスゴー美術と象徴主義のスタイルや精神を研究することで、絵画と装飾の関係と相違の問題を意識した取り組みとなりました。

装飾とは有機的で象徴的、精神的であると言われる一方で文様的なモチーフにすぎず、主題がぼやけてしまうと賛否両論は続きますが、私は装飾性に備わる連続性、即ち終わりも始まりもない表象、繋がりやモチーフ同士の関係を結ぶ重要な表現形態であると考えています。以上のような双方のテーマを組み合わせて具象表現や抽象表現という両方の角度から研究し制作をおこなってまいりました。

染みる音 / A keenly felt sound
岩絵具、水干絵具、銀箔 / 高知麻紙
Mineral pigments, dyed mud pigments, silver leaf on Japanese paper
194 × 242 cm

纏う温度 / Heavy blanketing warmth
岩絵具、水干絵具、金箔 / 高知麻紙
Mineral pigments, dyed mud pigments, gold leaf on Japanese paper
194 × 242 cm

安田 萌音

YASUDA, Moeto

絵画においての自然美

The beauty of nature in painting

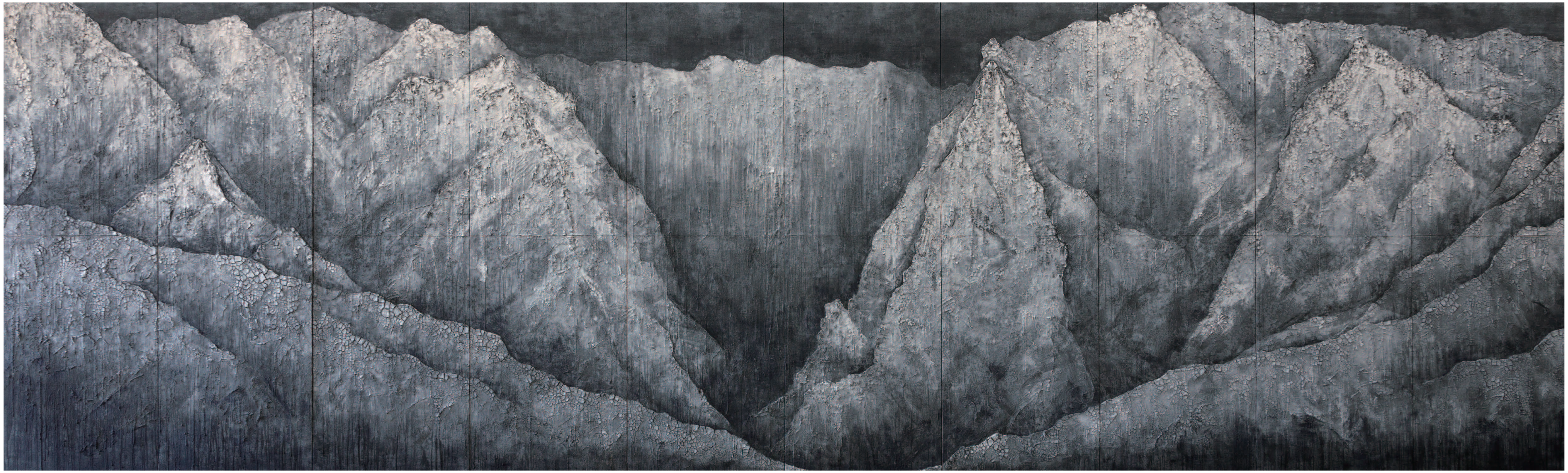
大変な雪が降っていた日に、「行為の記録 -大地-」に描いた山を見に行った。大雪ですぐ先は見えず、猛烈な寒さは人間の侵入を拒むかのようだった。目的の景色は見る事はできなかったが、自然の凄まじい存在を体感した重要な日だった。

雄大で、力強い、この大自然を絵画に表現するにはどうしたらいいか。自然美を絵画で表現する事は、美術の主題の一つだ。その中で最もオーソドックスな方法は、自然の模倣である。しかし、私は自然を模倣するのではなく、絵画の中で自然を再構築することで自然美を表現することを試みる。それを素材と表現の両面から実践している。

素材として土を使用することで、直接的に自然を画面上に構築する。土で山を描くこと、つまり、大地で大地を描くことで、絵画上に大地を創り出すのだ。

また、あえて、ひび割れが起きるようにしている。画面上で、作者の意図していない、ひび割れた部分は自然美にあたるのではないか。絵具から水分が蒸発する際に、自然とひび割れが起こる。それは、絵画の上に現れた、自然が作り出すひとつの自然美だ。

かくして、切り取られた大地である土を材料として、作品に大地を再現することを試みる。



行為の記録ー大地ー / Record of deeds -the Earth-
墨、胡粉、岩絵具、土 / 麻布 / Sumi, whiting, mineral pigments, earth on linen
270 × 910 cm

小堀 真由子
KOHORI, Mayuko

楽人惜日促 —楽しき人は日のあわただしきを惜しみ—
A happy person regrets how fleetingly the days pass

　私は修了論文のテーマに17世紀オランダの画家フランス・ハルスを選んだ。日本画専攻でありながら分野も時代も遠く隔たった人物をとりあげることは迷いながら始めたことだったが、最後まで彼にこだわり、研究テーマとすることをやめることができなかった。
　一方、卒業制作につながる一連の作品に私は《惜日》という題名をつけた。漢詩の古典にみられるフレーズからとったものだが、一日の終わりと一生の終わりをイメージした画面に合うと思うと同時に、日々を惜しむように生き、惜しむように描けたならばという自分の心情を表してくれている言葉のように感じ選んだ。
　そして、特別なポーズを好まず、人々をありふれた様子で描き、それだけで充分価値あるものとしたハルスに、生きていることが一瞬であり、それを慈しむ視線、そこに生あることを惜しみ日を惜しむ心情を見たことが、私がハルスに対するこだわりを捨てられなかった理由だったのだと今は思う。

惜日Ⅲ / Fleeting days Ⅲ
墨、岩絵具 / 高知麻紙
Sumi, natural mineral pigments on Japanese paper
181.8 × 227.3 cm